

金沢市「若い力」プロジェクトへの参画

団体名●池田ゼミナール・フィールド基礎演習プロジェクト／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科教授)

はじめに

昭和22年(1947年)の第2回石川国体において、敗戦後の日本の再建をめざし、若い人たちが元気で夢と希望を持てるように「若い力」が作られ、この歌に合わせた演技が金沢市民にとって非常に思い出も深く、長年にわたり受け継がれてきている。金沢市では、新型コロナウイルス感染(COVID-19)が拡大する中、日本のスポーツが明るく力強く元気を取り戻すことを願ってこのプロジェクトが実施された。「若い力」の演技は、StayHome できる運動であり、金沢市民に限らず、日本中への金沢市の運動文化の発信も図られている。

活動内容

これまで、「若い力」の演技は、金沢市立小学校連合体育大会での全児童による全体演技として、長年にわたり実施されてきており、金沢市出身の筆者も小学6年生時に演技した経験を有する。今回、「かなざわスポーツフェスティバル2020」の一環として「若い力」プロジェクトとして実施された。

池田ゼミナール及びフィールド基礎演習プロジェクト学生は、「若い力」プロジェクトの中の「若い力」チャレンジ(演技体験会)に参画した。

ほとんどの学生が金沢市以外の小学生であり、まず、「若い力」について調べ、9/28(月)より各自でweb 動画による金沢市スポーツ事業団職員の模範練習ビデオやその他のweb 上の動画をコロナ禍において個人練習し、その後、ゼミナール学生の団体演技練習をベースに相互に確認し合い、最終的に大学体育館での池田ゼミナール及びフィールド基礎演習プロジェクト学生の全員による全体演技練習を行い、10/11(日)開催の「若い力」チャレンジ(演技体験会)に臨んだ。なお、これに先立ち、10/9(金)に地元テレビ(石川テレビ)への生中継出演による情報配信を行った。



学生による「若い力」模範演技のテレビ放映の様子



撮影後の学生、スタッフの記念スナップ

成果、結果の考察

「若い力」を知らない県外の学生も金沢伝統の「若い力」の存在を知るきっかけとなり、この伝統スポーツ文化が後世に受け継がれていくために、地域の方々と一緒に演技する意義を感じながら活動することができた。また、連携組織、団体の関係者に加え当日参加の一般市民の方々と交流を通じて、言葉遣いやコミュニケーション能力、積極的に行動する力を得ることができた。本番では皆の動きがぴったりと揃い、一体感のある演技ができ、主催の金沢市スポーツ事業団関係者からも高い評価を得ることができた。

今後の課題、展望

今回は、新型コロナウイルス感染防止上、大学行動指針により、十分な準備ができず、加えて金沢市の新規事業とのことで、その場での即対応が求められた。来年度は、今回の経験を活かし、金沢のスポーツ文化の配信に寄与できればと期待される。